

2013年9月8日 (第156号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mx1.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
パンの形の中に
キリストを見るよう
に努めながら、
わたしたちは一日を
始めます。
日中は、貧しい人々の
疲れ体の中にお
られるキリストに出
会うために出かけま
す。

パチカン教皇大使をお迎えし式典
11月4日 高松教区設立50周年記念の集い

「高松教区設立50周年記念の集い」の式典は11月4日(月)桜町司教座聖堂で行われる。当日はパチカン教皇大使をお迎えし、第一部は「感謝」「希望」「賛美」の各テーマで催しがあり、第二部で派遣ミサがある。その後「若者」教皇大使の集いも予定されている。当日のプログラムは次の通り。

〈集いプログラム〉

- (12時30分開会)
・開会式・来賓紹介
・「感謝」(12時40分)
・「希望」(13時10分)
・「賛美」(13時45分)
・「派遣ミサ」(14時20分)
・解散(16時00分)
その後、若者と大使の集い(17時30分～19時)
通訳・Srキリス

勝谷太治師を 札幌司教に任命



教皇フランシスコは6月22日、ベルナルド勝谷太治「被選司教」(札幌教区司教、57歳)を札幌教区司教に任命することを発表した。札幌教区は地主敏夫司教(当時)の引退以来、2009年11月から新潟教区の菊池功司教

さいたま教区 谷司教退任



教皇フランシスコは、さいたま教区の谷太三司教(60歳)が、提出した退任願いを受理し、同時に、東京教区の岡田武夫大司教を、さいたま教区の教区管理者に任命した。谷司教は2000年9月15日、司教に叙階。日本カトリック正義と平和協議会の会長や、司教協議会の社会司教委員会副委員長などを務めていた。



・各小教区へは案内状とプログラム、式典で使用する「クレド・ドミニ」のCDと楽譜及びフリースペースコーナー・聖員販売の案内を発送
・ロゴマークについては巡礼教会用教会名入りスタンプ(左記)



・各小教区へは案内状とプログラム、式典で使用する「クレド・ドミニ」のCDと楽譜及びフリースペースコーナー・聖員販売の案内を発送
・ロゴマークについては巡礼教会用教会名入りスタンプ(左記)

・信徒の皆様へのお願ひ
「50年の感謝」と「今後」
このような教会を目指した



司教評議会にて提案され、司教評議会・教区宣教師司牧評議会にて採用決定された「小教区巡礼へのお誘い」手帳が完成し各小教区に配布済みである。期間は来年8月15日までの一年間。但し手帳記載の巡礼による全免償は信仰年による免償規定であることから、巡礼による全免償は信仰年閉幕の今年11月24日までであることに留意する必要がある。

信仰年に寄せて③

宇和島教会担当司教 田中正史

「だから、わたしは信じます」の信の構造について。おん父の親心、おん子のへりくだった愛、そして聖霊の恵みのみ手

信徒の方であれば使徒信条を知らない人はいないと思います。しかしこのクレドである「信じます」は個々の信仰内容に対してすべて同じようにかかっているのでしょうか。また、このクレドは大きく分けて、おん父に対して、おん子に対して、聖霊に対して向けられています。おん父を信じていること、おん子に信じていること、聖霊を信じていること、果たして全く同じなのでしょうか。今回はクレドの構造について考えてみたいと思います。

自分の決断で信仰宣言(クレド)

- ① わたしは天地の創造主、全能の父である神を信じます。(ペトロ)
② わたしは父のひとり子わたしたちのキリスト・イエスを信じます。その起源は受洗を願う者に要求された信仰宣言として8世紀に最終的な形が成り立ちました。この信条は(セベタイの子ヤコブ)
③ 主は聖霊によって宿り、おとめマリアから生まれ(セベタイの子ヤコブ)
④ ポンテオ・ピラトのもて苦しみを受け、十字架につけられて死



12の条項を表明したとき、歴史的な裏付けがあるわけではなく、クレド(Credo)はラテン語で「信じる」という動詞の一人称です。直訳すると「わたしは信じます」となり、あくまでも一人ひとりが自分の信仰を自分の決断によって表明している点が大切です。一人ひとりの自由な信仰への決断が信徒の信条として内的なモチベーションを高めていき、(アルファイの子ヤコブ)
⑦ 聖者と死者を裁くために来られます(フィリポ)
⑧ わたしは聖霊を信じます(バルトロマイ)
⑨ 聖なる普遍的教会(「聖徒の交わり」(マタイ)
⑩ 罪のゆるし(シモン)
⑪ からだの復活(タダイ)
⑫ 永遠の命を信じます。(マテウス)

この信条はカトリック、プロテスタント、東方教会を問わずすべてのキリスト者に共通の信仰宣言(ただし、口部の内容は東方教会版には入っていません)に要求された信仰宣言として8世紀に最終的な形が成り立ちました。この信条がもっている12の個々の事柄は、伝統的には12人の使徒たちそれぞれに帰せられ、イエスの昇天後聖霊を受け、12使徒がそれぞれ順番に

思いとその愛をおん子であるイエス・キリストがはっきりと示してくださったことが宣言されます。それはたとえ簡潔内容として明確には述べられていなくても、おん子の生きざまからみてそのことが含まれていることは明らかです。そして②は「おん子イエス・キリスト」に対する信仰であり、おん子が具体的に私たちのためにどのように関わらなければならぬかという歴史的な救いの出来事が表明されます。最後に③は「聖霊」に対する信仰が述べられ、

「おん子を通して創設された救いは今やおん子の使命を委託された教会を通して、また聖霊の働きによって実現されている」ということが宣言されます。これらの宣言の中で大切なことは、私たちの信仰は「私たちがまず信じて」ということに先だって、神のほうからさまざまに救いの出来事を実現してくださったからこそ、その出来事によって私たちが信じていることが可能になったということです。特におん子を通して示されたおん子の姿、思いとその愛こそが私たちに決定的であり、キリスト教に特有の信仰観をもたらしています。この使徒信条の3つの部分は、前回お話しした聖トマス・アキナスによる「3つの信じる」にも呼応していることがわかります。すなわち、おん子に対する

はばたき

9月は秋もなかなばの月で、『大気澄んでさわやかなころである』と歳時記にあるが、近年は暑さがガンガンの季節である。世はだんだん住みづらく、生きづらくなってきた。9月10日は『日本205福者殉教者』の記念日。福者のひとりベトロ・パウロ・ナバロ神父をご存知だろうか。420年前のキリシタン時代、松山市の道後に教会と司教館を建て四国で初めて、この地に

住んで宣教した。日本語にたんのうだった神父は人々に慕われ、話を聞きため教会へ多くの人が訪れた。これからの訪れ時、突然秀吉の「伴天連追放令」が発せられ、長崎・平戸へ追放された。神父はその後、山口、豊後、長崎などで活動。1614年の大追放令の時、追放船に乗らず潜伏、34年間日本で苦難の道を行んだ。過酷な迫害下で山小屋や洞窟に隠れ、変装し夜中に長距離をキリシタンの住む地区から地区へ草履で歩いた。ミサや告解、聖体を授けるなど、信徒の信仰を守り励まし続けた。1621年島原で捕えられ翌年、「イエズス・マリア」と唱えながら火に焼かれ殉教。1867年ピオ9世によって列福された。9月10日には、四国で宣教し証し人となつた福者ナバロ神父がいたことを思い出し、

小教区紹介

江ノ口教会 (高知)

高知駅北玄関口からは、まや橋方面を背に左方向に道をとり分け歩くと、江ノ口教会の庭が目に入り...

アットホームを目指して



故土佐神父作 日本キリシタン史の1ページにも残され、証となる出来事である。

アットホームを目指して

今年春には隣接の「聖心の布教姉妹会」修道院が本部に引き入れられました。手本となる証人(あかし)の姿を失いました...

2年の間、この欄で典礼とミサ、またそれに関する一人ひとりができることについて具体的に書きました。主にミサをめぐる、それぞれの観点、側面から「典礼的な洞察」を提供しました...

年間、毎年楽しみに大田先生を待ちました。そして、その講義は大変貴重なお話でした。

司教座でのミサ、あるいは巡回教会でのミサであれ、また参加者が30人でも10人不足しただけでも、神によって呼び集められている神の民です...

1. 環境づくり(案内、照明、お花、音響など) 2. 祭具の管理(杯とパテナ、祭服、侍者服など)

『典礼奉仕』のために (20)

『正常なミサ』を管理すること

高松教区典礼委員長 レナト・フィリッピニ



- ①ミサの前にさわさわしていますか。 ②献金を集める時間を長く感じますか。(つまりそれは典礼を中断させている) ③お知らせの長さは3分を越えていますか。 ④みこことが朗読される時、雑音も入っていますか。 ⑤夏に入ってから、一日で枯れてしまう花。次の日曜日までそのまま置いてありますか。 ⑥「ハイ」と答えているなら、「異常」という典礼の診断結果になります。つまりそれは、中途半端な式、だらしない流れ、しまりのない典礼になってしまうのです。もちろん、すべてが「ハイ」ではないでしょう。けれども、もし問題があったり気づいたことがあれば、



広島・高松教区司祭合同黙想会 「浦上四番崩れ」の受難に学ぶ

本部事務局長 西川康廣助



分かち合いのひととき

2013年6月24日(月)～29日(土)まで、カルメル修道会聖テレジア修道院において、恒例の年の合同黙想会をした。今年も広島教区(11名)と高松教区(6名)の合計17名が参加し、講師は長崎26聖人殉教記念館館長である、デルカ・レンゾ師のご指導のもと「新しい福音宣教」をテーマに意義ある黙想会をすることができた。

黙想会から、同じくキリストに従う者として、現代社会の中でキリスト者であることを誇りとした公にして生きていくか、子供たちに信仰の喜びと神に従う生き方を真剣に伝えているか、社会と共に特に小さくされた人々と連帯した生き方をしているか、十字架を避けて生きてはいないかな等を自問自答させられた。

て来たが、これを機に信仰表明の新しい時代への幕開けを期待する出来事であった。

特に長崎の浦上四番崩れの流浪先での厳しく、身もよだつような話をいろいろ書籍を引用しながら聞かされた中で、わたしの心に最も深く印象に残ったことは、あらゆる苦しみ御手を常に直視していた流浪先の子どもの生活の生々しさだ。次は話も忘れることができない。長崎へ帰還した人たちの生活も想像を絶する厳しいものがあった。たとえ家屋や土地や財産など、何もかもが信仰のゆえに失ってしまったとしても、決して取り戻そうとはせず、むしろこれまでともに歩んでくださった神の恵み深い、憐れみと慈しみに目を注ぎながら感謝のうちに日々を生きることにこそが、キリストの生き方だということに気づかされた。

現在の日本カトリック神学院は、哲学科の2年間は東京キャンパスで、神学科の3年間は福岡キャンパスで、そして神学科4年生(助祭コース)は再び東京キャンパスで学ぶシステムになっております。助祭様方は、コースの学びをされながら、聖職者として、私達哲学科生の指導をして下さいます。哲学科1年生は、種々の学びや活動の中で、神学院生活へと導入されま...

2013年 高松教区修道女連盟総会・研修会 諏訪司教 教区50周年で呼びかけ



昼食を摂りながら連絡を深める

6月22日(土) 四国カトリック会館に於いて、修道女43名の参加を得て開催されました。午前中は昨年に続く西川康廣助による「聖書理解へのアプローチII」でしたが、限られた時間が残念と思われるほどの豊かな内容でした。続いて、諏訪司教様のご挨拶と「高松教区設立50周年」に向けてのお話でした。信仰共同体の養成という大きなテーマを目指しながら、信仰年を一人ひとりが自己の歩みを信仰の目振り返り、その中の神の導き、はからい、呼びかけを黙想していくことの大切さを語られました。また、私たちは頂いたこの信仰の恵みを共同体で話し合い、現実社会の中で何を基準にしたらよいか、とか、という問いに答えをいくという大きな課題に挑戦していかねばならない、とも語られました。午後には総会、会計報告、そして感謝のミサのうちに閉会しました。 Sr 光藤幸子

信仰年によせて 母の教えと祈りに導かれ

三本松教会を訪ねたのは8年前でした。洗礼を授けられた。3年目の私の信仰を顧みる時、幼少時代を思わずにはいられない。 父はフィリッピンのルソン島で終戦の年に戦死しましたが、小さな白い木の箱ひとつしか帰らなかった。祖母、母、我が姉妹の残された大家族の支えは、我が家にも伝わっていた。毎日の神々々であった。毎日供え物を欠かさず、朝夕には手を合わせ、また出かける時、帰るときの挨拶として、



母は早朝の開店前を店に出向き、毎日祈ってくれた。50年間私が無事にこの仕事を終えられたのは母の教えと祈りに支えられたものであった。

神学生便り 日本カトリック神学院のシステム

哲学科2年 高山徹

未熟な自分は、必ずしもスムーズにいかないことが多く、学期中は皆さんにご迷惑をおかけしました。その一方で、沢山の支えと励ましを頂きました。そうした中で、昨年より人数の減少した東京キャンパスにおいて、「みんなが協力していき」という雰囲気を感じ、嬉しく思っております。 何より、養成者の神父様方、職員の方々、そして神学院外の方々や沢山の支えが、私達の神学院生活が成り立っていることを日々感じております。 学生会長と呼ぶにはまだ未熟な自分ですが、頂いたこの一年を恵みとして、感謝と喜びの内に、主と共に歩むことを目指したいと思います。 三本松教会 中倉美智子



会衆に話されるタークソン枢機卿
左は通訳のビタリ師

8月5日、悠久の平和を求め、人々がそれぞれに思いを携えて広島に集まった。北海道から九州まで全国各地から参集した人びとに混じって共に祈り、考え、行

若い力 WYD リオデジャネイロ大会 『だから行って、全ての人を私の弟子にしよう』 ブラザー八木

日本巡礼団として、20名のスタッフ(私もその一員でした)、45名の青年、計65名が、ワールドユースデー・リオ大会に参加してきました。キーワードは以下の4つです。

パパ様

このワールドユースデー・リオ大会に世界からの参加者は300万とも400万人ともいわれています。その中には、新しいパパ様になりたい一心で参加した若者も多かったと思います。パパ様のお話や説教には、いたわり、優しさ、温かさがあり、その中にも威厳が



コパカバーナビーチでの教皇ミサ

ブラジルで訪れたサンパウロにしてみても、私たち日本人は歓迎されっぱなしでした。日本の国旗を持っていくだけで、たくさんの人々(特に南米が私たちと一緒に写真を撮るうとして、親近感を持って近寄ってくれました。なので、道を歩いているだけで、たく

動できたことを喜び、共に感謝している。愛媛からも参加することができた。分科会ではそれぞれに分かれ、「改憲について」の講演、「福島の証言」と題して二本松教会の信徒会長である柳沼千賀子さんから福島の現況について聞くことができた。差別と孤立の中で希望をもって支援活動が続いていることを、事例をあげながら支援の在り方についても語られた。また「アーサー・ピナードさん

しゃ降りの雨に原爆供養塔の周辺はそここに水たまりができた。そんな中、祈りのつどいが始まった。前田万葉司教、日本聖公会中村豊主教による献水、「水のこころ」を合唱しながら



有名なりオ市内の丘に立つキリスト像は、夜でもライトアップされているために、一日中町の至る所から眺めることができます。ピルの合間や広く視界が開けたところから、また何気なく町を歩いているとき、丘

「若者との語り」 徒歩での移動中や、休憩や分かち合いの中で、たくさんの方々と短時間で深い部分で対話ができました。その中で、いじめられた経験がある何人かの若者がいて、それをバネに積極的に生きていこうとする姿がありました。今までの自分をふり返り、新たな自分を剣に自分と向き合いながら歩んでいこうとする姿勢も感じました。そして、教会を大切に、信仰心を深め

見守る。灼熱の熱線で膚を焼かれた人は水を求めてさまよったことと重ね合わせるとき、あれから68年が経つ。アーメンハレルヤを歌いながら平和行進が動き出す。雨も上がった。所属教区のブラカドをかけた、「核廃絶」「原発反対」など思いを込めたプラカードとともにギターを鳴らし合唱の声を響かせながら行進を進む。若者が多いことに力強さを感じる。終点の平和記念聖堂まで1600メートル。道

行く人々平和の叫びは伝わったろうか。平和祈願ミサ。全国16教区から参加した人たちが教区ごとに紹介され、祭壇上に並んだ司教団の一人ひとりが紹介され、前田万葉司教の司式で始まる。タークソン枢機卿(教皇庁正義と平和評議会議長)に並んだ司教団の一人ひとりが紹介され、前田万葉司教の司式で始まる。



同グループのメンバーと

平和を願って祈る 戦場の体験も朗読 桜町教会でコンサート

8月3日(土) 桜町教会に於いて平和を祈るコンサートが夕方4時から行われました。まず初めにキヤンドルサービスがあり、平和を祈るローソクの火が人々に配られ、「アングの聖フランシスコの平和の祈り」を全員で唱えてコンサートは始まりました。第2部は戦場に於いて負傷した兵士の水もなく死骸の只中に放置された体験朗読があり、第3部はソプラ

阿波踊りを体験し 沖繩のことを考える 徳島で「歌って踊って平和を語ろう」

今年も8月12日~13日カトリック徳島教区で「歌って踊って平和を語ろう!」が行われました。第一目は、徳島の伝統芸能「阿波踊り」を体験し、参加者は少なかつたもののお互いに交流を深めました。第二日目は、徳島県内外から約30名が集い、山田圭吾氏の『沖縄から平和を語る』基地のない沖縄』について、その活動や体験のお話を聞きながら平和への祈願文を新に核の傘に守られることの愚かさを感じる。

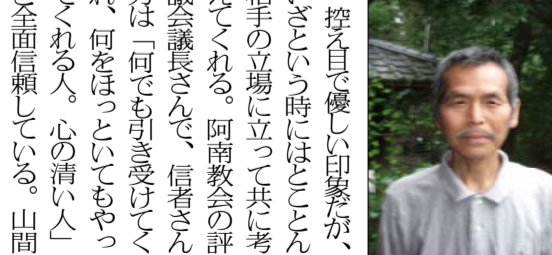
徳島の人々 中学生と出会うは神のお恵み サレジオ会神学

毎年、夏のはじめに四日市サレジオの志願生は四国に参ります。今回は徳島に参り参りました。11名の志願者と4人のスタッフは徳島教会に泊まらせてもらいました。主任司祭の林神父様やオブレイト会の八木ブラザーや信徒の方々の笑顔のおもてなしと美味しい食事にも感動しました。さらにまた、今人気の徳島フーメンが私たちのお腹と気持ちを満たしてくれました。そして鳴門の渦潮も歓迎してくれました。迫力があって凄い!ノ、オカリナの演奏の後、「賛美の歌」コーラスで平和の願いを込めた歌声が響き渡りました。お聖堂の響きにも助けられ、曲が持っているイメージが人々に届けられたと感じました。このコンサートを続けていく中で、平和への祈りが人々へ届けられることを願っています。武田玲子

四国の子ども、青年とサレジオ志願生

控え目優しい印象だが、いざという時にはことごとく相手の立場に立って共に考えてくれる。阿南教会の評議会議長さんで、信者さん方は「何でも引き受けてくれ、何をほっといてもやってくれる人。心の清い人」と全面信頼している。山間部に住み、自給自足の生活をなさっているが、何故そのような生き方を選ばれたのか尋ねてみた。『元々都会よりも静かな田舎が好きで、焼き物の会社を辞めて、次のステップを考えていた。インドへ旅行した時、インドにはヒンズー教の修行者が世間を捨てて神

ひと 『キリスト』のように 阿南教会 渡部康雄さん(64歳)



に祈りながら一生を終える人がいる。お金も物も持たないで生きている。しかも一般の人々がその人達を支えている宗教的な国だと気づき、その人達の生き方に勇気づけられた。「自給自足の生活をしながら山の中でゆったり過ごしたい」という憧れを実現する確信も得た。妻、厚子さんとはいっぱい出合い、意気投合。結婚し、愛知の山村生活へ。最初は仏教・ヒンズー教の生き方をしていた。本を読み、アルバイトをし、焼き物をずるという生活になった。その後、上勝町に移住。その頃、キリスト教の本を読み始め、キリスト教に目覚めた。カトリックのみ「ミサが最後の晩餐を受け継いでいる」と感じ、洗礼を受けた。信者として、世俗的なものに感われない生き方をしたい。山中の生活は共同体に向かない。会議や組織的なものも苦手だが議長をやるようになり、共同体を運営していくことの大切さが分かってきた。本当にやるのなら「イエスのように」という思いがある。しかし使徒のように生きるのささげ難い。キリストの言われた清貧を実践するには価値観の逆転が必要だ。ここに来て自分の生活をもう一度見直したいと考えている。『神に導かれ様々な共同体の歩みに謙虚に協力していく中で、今を見つめ直すところとされている康雄さんの姿を美しいと思う。そしてこれからも阿南教会の大黒柱として私たちを支えてほしいと願っている。阿南教会 答島久子

を抱かせてもらえぬ豊かなひとときでした。ブラザー八木信彦



山田圭吾氏の熱井に聞き入る

を聞き、沖縄のことを詳しく知り、学び、分かち合う機会となりました。山田圭吾氏は、那覇市生まれで、現在、普天間基地のある沖縄市に在住し、沖縄についての歴史や現状を幅広く伝えていくために、色々な活動をされています。カトリック泡瀬教会(那覇教区)に所属されており、お話しや資料・写真を通して、まだまだ私たちが沖縄のことを知らないことに気が付かれ、私たちが見る沖縄と、沖縄から見る私たちの視点に大きなギャップを感じました。また、志願生による伴奏やミサの奉仕を行い、ミサ後には志願院のことを紹介するためのコーラスや志願生へのインタビューも行われました。お昼を一緒に食べた後には中学生だけの集いとなりました。ゆっくり時間をかけて中学生と志願者たちは自分の生活とあり方について語り合いました。集いの終わりに楽しいビンゴ大会もありました。今回の旅の沢山の体験を通して出来事との出合い、自然との出合い、人との出合いは神の恵みであると感じました。そして、神と出会う時になりました。神に感謝! レー・ファム・ギエ・フィー 神学生(サレジオ会)

医療のともしび (37)

人体と宇宙との関連は？

人間は古くから宇宙に何があるのだろうと考え、古くは肉眼で、そのあと望遠鏡による天体観測をし、近年電子的望遠鏡であるハッブル望遠鏡などを使用しています。月への到達、遠く離れた星への探査がなされ、多くの人工衛星が飛び交い、宇宙ステーションによる人間の宇宙滞在が始まっています。民間人を宇宙に連れていく会社ができ、宇宙旅行を楽しむ時代が到来しつつあります。

われわれ医療者は、患者さんの体を診て触れるとき、自然と尊敬の念が湧いてきます。なぜ人間の体の組織がこのような形をし、その機能があるのか、分かっている部分とまだ分からない部分があります。学問としての最終的な結論が出せないのです。そしてそこが破綻すると病気の誘因にもつながります。医療者(人間)が治癒させ得る領域が増えてきたとは云え、限界点もあります。一方医療者がもうだめだとあきらめたあと、以外によくなるという現象も結構あります。そういった人体の不思議もあるのです。そのため私は人間

を診ているとき、その奥に宇宙を感じる事がよくあります。どんなに探索しても、最後まで全ての姿を現さないぞという強い意思を感じる事があつたのです。この点が宇宙との類似点でしょうか？神様は、宇宙だけでなく人間も創ってくださいました。そこに類似点があるのは当たり前かもしれませんね。

私事で恐縮ですが、6月末日に父親が急死しました。真言宗信徒でしたので、カトリックの考えはありません。遺言ノートがありました。そこには生まれ変わったら宇宙を研究する物理学者になりたいと書かれていました。それをすれば、人間の心がなぜ卑しいのかがわかるからであると書いていました。父親の趣味は望遠鏡をのぞいた天体観測でしたので、そんなことを考えていたのかと驚きました。宇宙を観ることで人間を見ようとしていたのです。私は人間を診ることで宇宙を感じていたので、方向性は違っていますが、人体と宇宙との類似点は同感だったようです。生前に父親と人間と宇宙について話をしたら面白かっただろうなと、今になって後悔しております。

坂出聖マルチン病院 整形外科 田賀谷健一

教区スケジュール

- 9月
1日(日) 年間第22主日
8日(日) 年間第23主日
10日(火) 日本205福者殉教者(記) 司祭評議会10:30
13日(金) 聖ヨハネ・クリソストモ司教教会博士 教区設立50周年記念日
14日(土) 十字架称賛(祝)
15日(日) 年間第24主日
16日(月) 聖コルネリオ教皇 聖チプリアノ司教殉教者(記) 敬老の日
21日(土) 聖マタイ使徒福音記者(祝) 宣教司牧評議会役員会13:00
22日(日) 年間第25主日 世界難民移住移動者の日
23日(月) 聖ピオ司祭(記) 秋分の日
24日(火) 深堀敏司教命日
28日(土) トマス西と15殉教者(記) 50周年実行委員会14:00
29日(日) 年間第26主日
10月
1日(火) 聖テレジア(幼いイエス) おとめ教会博士(記)
4日(金) 聖フランシスコ(アシジ) 修道者(記)
6日(日) 年間第27主日
7日(月) ロザリオの聖母(記)
12日(土) 教区女性の会in松山
13日(日) 年間第28主日
14日(月) 体育の日
15日(火) 聖テレジア(イエスの) おとめ教会博士(記)
18日(金) 聖ルカ福音記者(祝)
20日(日) 年間第29主日
27日(日) 年間第30主日
28日(月) 聖シモン・聖ユダ使徒(祝)

告知板

第55回日本カトリック看護協会 全国大会in仙台

「大震災を乗り越え復興に向かって」 生かされているいのちのわかちあい

期日: 2013年10月25日(金)~26日(土)
場所: 仙台
会場: 25日 ホテル法華クラブ仙台
26日 カトリック元寺小路教会
主催: 日本カトリック看護協会
担当: 仙台支部

夫婦のつどい

「分かち合いを通して夫婦の関わりを見直し、絆を深めませんか」

ご夫婦は勿論、お一人でも参加出来ます!

期日 9月28日(土) 13:30~16:30
場所 カトリック桜町教会

夫婦の集い

分かち合いを通して夫婦の関わりを見直し絆を深めませんか 御夫婦は勿論ですが、お一人でも参加出来ます!

9月28日(土) 13:30~16:30 桜町教会

新刊書籍紹介

イエスの教えてくれた祈り

一雨宮慧神父推薦

「本書は聖書学的な知見という土台の上立った沈黙へと我々を導いてくれる」 ミラノの大司教であり世界的な聖書学者でもあったマルティーニ枢機卿が病院や刑務所、修道院、小教区で行った「主の祈り」についての司牧的講話一個人的沈黙と社会的黙想を統合した名著。カルロ・マリア・マルティーニ 著 篠崎榮、レナト・フィリピーニ 訳 四六判 並製110ページ 教友社 ¥1050(税込)

＊ご注文は是非レナト神父迄!

薩摩のベルナルドの生涯

初めてヨーロッパに行った日本人

「ベルナルドは聖人のように死にました。自分の死をとおしても、全ての人々を善導したのです」(死の1年後に書かれた手紙)、「もし初代教会のキリスト教徒が生きていたら、このような人であるだろう」(ベルナルドと親しかったリバデネイラ神父)

ホアン・カトレット ホセ・マリア・カトレット/絵 高橋敦子/訳 出版社: 教友社 価格: 1,050円(税込)

司教講話について分かち合う



「結城の雪祭」として今年もまた阿南教会で結城の雪祭が催された。今年も例年のように講演は行われず「現代を生かす殉教」というテーマのもと、分かち合いがもたれた。それに先立ち、諏訪司教がイ

文化は形作られてきた。嘘と死の文化の真ん中にあってイエスを証するということとは殉教者となる事に他ならない。周囲の人々の反対や無関心、連帯の無い孤独な生き方が蔓延する中において、くじけそうになる私達をマザーテレサは励ましていま

小豆島への憧れというか、それに似た感慨に憑かれたように心動かされて、残された時間を此処で過ごせるならば、心地よい終焉の地になるのではと、そう思い込むには運作はなかった。それは去年のゴールデンウィークだっ

阿南教会 渡部康雄
与えられた感動の時 右近祭に寄せて
四国にある城、丸亀城、松山城、高知城を巡り、取って返して高松へ。会話の中で、小豆島へ渡るのは難しいだろうとの妻の問いに、高松から船で1時間くらいだろうといつて、じゃ、寄って24の瞳の学校へ行ってみたいと、土庄港に初上陸した。案内通り、道を登ると海が見える辺りで高い真っ白な十字架が目に入り込んだ。予想だにできなかった光景に私は大変驚いた。小豆島にカトリックの信徒が、ましてや教会や修道院までもが存在するなど、夢想にすぎなかった。



小豆島にある右近ゆかりの地など

カトリック高松司教区幼稚園連合会(会長:諏訪治郎司教)主催第41回教職員研修会が8月2日から3日、高知市の共済会館において「今、教会が考えていること」というテーマで開催された。四国4県12のカトリック幼稚園から約50名の教職員が参加した。第1日目はアントニ

いう強いメッセージが込められていた。第2講話「十字架のしるしをよめる意味」では、私達は神が創り、神が与えた何故生きるのか。いろいろな出会いや体験を通して「人間になるために」そして「私達は神の子として生きていく」と話された。参加者は6グループに分かれ、テーマを基に意見交換し、分かち合った後、各グループ発表し全体会で共通理解の場を持った。最後にイルタヤラツ師がみ言葉の祭儀を司式した後閉会した。来年度は愛媛地区で開催予定。

エラスムのジョン・A・ハーデン神父の「私達の時代・殉教の時代」という文章を紹介された。この時代、私達には血を流す殉教は与えられないが、証による殉教という、より困難な時代に生きている。まず世俗的な喜びという価値観のもとに政治、経済、

世俗化のあらしに翻弄されている我々信徒にとって、今回の結城の雪祭はイエスの証人になるというクリスチャンの本質を真剣に考えさせられた集いとなった。私達はこの孤独を生かす必要はないが、信仰共同体を支えられ、お互いに励まし合って頑張りましょう。力は聖霊が与えてくれます。



妻が教職を探してみられ、れっきとして在るではないか。自分の無知に恥じ入ると共に、ある感動に包まれた。何よりも400余年もの昔に、これも何と1400人もの人々が今の私たちと同じ父である神に憧れ、その生命に入るために、無条件にこの世の物すべてを差し置いて暮らしていたとは。その道を最優先に生き抜くべきと、聖霊の導きと御父の恵み深き賜物を選んだのだ。その知恵ある選択と決断の潔さに感動の涙を禁じ得ない感動の時を与えられたのだ。

医療法人社団聖心会 阪本病院
整形外科・脳神経外科・泌尿器科 皮膚科・外科・消化器外科 耳鼻科・眼科・形成外科 呼吸器科・呼吸器内科・内科 リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科 〒769-2602 香川県高松市北町川原103-1 ☎0879-25-1121(代) http://www.idm-hzg.co.jp/sakamoto/

神を観想し、その実りを人々に伝えよ
聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会 阪本病院
院内保育園完備

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園